

2社がネット販売正式開始 家電大手各社も広帯域時代へ向けて準備進める

メーカーからユーザーへの家電のネット販売は、2000年の幕開けとともに実質的な運営が始まったといえる。

1999年以前にも動きがなかったわけではない。三洋電機では同年7月より、PCと接続して編集できるポータブルMDプレーヤーの販売や指定の絵柄を焼き付けできるトースターの注文販売などをしており、ソニーではPC「バイオ」を関連ソフトや周辺機器とセットにして販売している。ソニーのセットは店頭にはない組み合わせであり、店頭の販売価格よりも大幅に割安に設定されたことで話題を集めた。ただし、どちらも製品ラインナップや決済方法、システムなどの面から見て、あくまで試験的なものだった。

ソニーがネット販売正式開始

だが、ソニーは2000年に入ってネット販売を正式に打ち出し、2社をほぼ同時に立ち上げた。

1つはソニー単体で別会社として立ち上げたネット用の販売会社「ソニースタイル・ドットコム」^{Jump01}。こちらはソニー製品が対象だ。2月1日の発表と同時に稼働され、10万円を超える高価なヘッドホンや300枚を収容する大容量CDプレーヤーなど、店頭では手に入りにくいAV製品が10点ほどが展示された。同社の初年度の年間売上目標は100億円、3～5年以内にソニー製品の国内売上高の20%を占めることを目標としている。

もう1つは、家庭用ゲーム機「プレイステーション (PS)」をもつソニーコンピュータエンタテインメントが、流通やソフト会社11社と合併で立ち上げた「プレイステーション・ドットコム」^{Jump02}。「PS2」本体や関連したソフト商品などをネットで販売する事業をスタートした。

PS2本体は、4月上旬までの1か月で総計140万台のうち4割をネット販売で実

現。大手家電メーカーのネット販売のスタートとしては上々すぎる出だしだった。出荷を絞られ、さらに約10%という粗利の薄さに苦労した小売店はPS2の販売を断念したところもある。

ネット販売に困惑する小売業界

一方、ソニーに続く形で正式にネット販売を表明したのは、韓国に本部を置く日本サムスンだ。3月末にネット販売サイト「デジタルデパート」^{Jump03}を立ち上げ、モニターなど数点を展開しはじめた。しかし、PS2に限らずこうした家電メーカーの直販に小売店サイドは複雑だ。たとえばある都内量販店の社員は「PS2のような状況が他の商品に飛び火すれば小売は終わり」としつつも、「買う前に機能がわかるゲーム機はともかく、家電商品は実物を見たり触ったりしないことにはなかなか動かない」という。大手量販店などで構成される日本電気大型店協会でも、メーカーのネット販売に対する考えは肯定否定まちまちで様ではない。ネット販売は、時代の趨勢と認識する一方で、メーカーには遠慮してほしいという本音もある。また、小売店自らネット販売を手がける状況も一層小売りサイドの状況を複雑にしている。しかしそうした小売店との問題を除けば、家電メーカーにとってネット販売は何重にも利益の重なる話だ。小売を通さないことで流通コストを抑えて純益を増やせる。また、小売店舗の少ない地域でも均等に商品を陳列でき、ネット上で獲得した顧客情報をデータベース化し、きめ細かいマーケティングや独自のサービスを構築することができる。より情報が進んだ段階では在庫管理やCRM（顧客情報管理）に直結することも可能だ。大局で見れば、小売店との関係性以外にネット販売を阻む要素はないのである。

家電最大手各社は様子見

ソニー、サムスンのほか、家電最大手の各社も、具体的ではないものの一応という形で名乗りは上げている。

たとえば松下電器は2000年年頭にあらゆる事業の再構築の一環としてネット販売を掲げており、東芝は直接販売ではなく、ネットを媒介とした量販店と独自のネットワークシステムの構築を表明している。ただし、どれも決定的なプランではない。

もしネット販売がすべてに行き渡ることになれば、メーカー系列店は壊滅的な打撃を受けることになる。それはどのメーカーも現段階では忍びないというのが心情のようだ。

では、家電メーカーはどのような形でネット販売に進むのか。

あるメーカーの広報担当者は「ソニーを手本」としつつ、「価格を下げないという条件で量販店との競合を避ければ、ネット販売というチャネルは今年中に実現する」という。

また、ソニーの「AIBO」のように店頭にはない商品をネットで並べるのなら、製品自体の価値も増し、小売店とも競合しないですむ。

将来的には相当数の製品をネットで掲載するのは確実。だが、当面は性格づけした棲み分けでゆっくり浸透させていく、というのがメーカーのとる道のようなのだ。

とはいえ、いずれ広帯域の時代が来てユーザーの利便性が上がれば、いつネット販売が主流になってもおかしくはないだろう。

(森健 フリーライター)

^{Jump01} <http://www.jp.sonystyle.com>

^{Jump02} <http://www.jp.playstation.com>

^{Jump03} <http://www.samsung.co.jp>



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp